

国際共同研究事業
欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
(Open Research Area for the Social Sciences)
平成 29 年度実施計画書

平成 29 年 3 月 3 日

共同研究代表者

(和文)

所属機関・部局 早稲田大学・政治経済学術院

職・氏名 ^(ふりがな)教授・船木由喜彦

(英文)

所属機関・部局 Waseda University,

School of Political Science and Economics

職・氏名 Professor, Yukihiro Funaki

1. 研究課題名 (和文) 金融市場安定化のための実験・行動経済学的分析及び制度設計の研究

(英文) Behavioral and Experimental Analyses in Macro-finance

2. 共同研究実施期間

平成 28 年 1 月 1 日 ~ 平成 30 年 12 月 31 日 (3 年 0 ヶ月)

(注) 本計画書は、受託機関を通して電子データにて提出してください。

5. 本年度実施計画の概要

※ 申請書の内容を踏まえて、日本語にて記入してください。

※ 経費及び交流計画との関連がわかるように具体的に記入してください。

本プロジェクトは、**実験経済学による研究とそれに基づく理論的研究**の二段階で進めていくことに特徴がある。本年度は 2016 年度の基盤整備のもと、共同研究のさらなる活発化を行うため、日欧相互の訪問とワークショップ、共同研究実験をさらに行う。具体的には

情報の非対称性によりバブルが起こる理由の確認(*)

IPO 価格付けの高騰の原因の究明(*)

投機行動と他者の行動に対する推論能力の関係

国債取引における政府介入の役割

投資による利益の分配交渉

を探求する実験を行う。なお(*)は本年度から新たに加わった研究課題である。これらは日本側の新参加者と共同で研究を続けていく。

この実験のための被験者謝金として、各実験において、一人当たり 2000 円～4000 円と見積もっている。各実験で 60 名の被験者を集めるので、3 千円×60 名=180 千円が実験一回当たりの予算となる。統計的分析を可能にするためには実験の各テーマにつき 4 回、合計 20 回分の実験参加者謝金が必要となる。このうち、他大学において業務委託で行う実験もあるので、実験参加謝金 1800 千円と実験業務委託費 1800 千円を見積もっている。また、実験実施時の補助者の謝金 200 千円も計上している。

さらに、2016 年度同様、プロジェクトで行う被験者管理、実験データの管理、プロジェクトのためのワークショップや研究集会を統括する事務局の運営が必要である。事務局の運営のための事務員・RA を週三日のペースで雇用し、本プロジェクトで行う実験全般の資料等の作成を行う。また、実験に必要なソフト開発も RA が行う。このための雇用経費として、人件費・謝金等から 1200 千円、業務委託手数料 880 千円を計上する。実験環境運営、ソフト開発、実験結果の処理の効率化を図るために、信頼性のある高機能ノート PC を 2 台購入する予定である。これは 2016 年度購入 PC と併せて、メンバー間で有効に活用される。

さらに、2016 年度から継続する共同研究の成果を報告し、今後の共同研究の進展について議論を行うためのワークショップを日仏両国で行う予定である。一つは、フランスで開かれる実験ファイナンスの国際学会と並行して行うワークショップであり、これに船木、石川、秋山、上田が本経費で訪問する予定である。さらに、日本側研究者とヨーロッパからの研究者 8 名が一同に集う大規模なワークショップ (BEAM 国際ワークショップ) を本プロジェクトの研究協力者がいる立命館大学にて 11 月に行う。ここでの議論が中間報告成果としてまとめられる。その成果は web に掲載する予定である。

また、研究の進展とともに、その研究成果内容の一部を 2016 年度まで欧州側のメンバーであったが、その年度中にアメリカのアリゾナ大学に移籍した Charles Noussair 教授の主催するワークショップで報告する。この報告予定者は大角、船木である。さらに、日本側メンバー数名は、実験ラボを保有し、経済実験研究が盛んである高知工科大学、京都大学、京都産業大学、関西大学などを訪問し、セミナーなどで、研究内容や研究の進展を報告して、参加者の方々から、意見やコメントをいただく。

6. 本年度経費総額* 9,690 千円

* 研究経費と業務委託手数料の合計を記入して下さい。

(単位：千円)

研究経費							業務委託手数料
設備備品費	消耗品費	旅費等		人件費・謝金等	その他経費	外国旅費・人件費・謝金等に係る消費税*	
		国内旅費	外国旅費				
490	172	840	1900	3200	1800	408	880

* 外国旅費・人件費・謝金等に係る消費税を本経費から支出しない場合は、その理由等を「外国旅費・人件費・謝金等に係る消費税」欄に記入してください。

* 委託費の上限は申請額に基づき、1,000万円/年かつ、3,000万円/全研究期間（3年間の場合）または2,000万円/全研究期間（2年間の場合）とします。

翌年度所要見込額	翌々年度所要見込額	3年度後所要見込額
7,907		

左の欄は該当する場合のみ記入してください。

(単位：千円)

* 委託費の上限は申請額に基づき、1,000万円/年かつ、3,000万円/全研究期間（3年間の場合）または2,000万円/全研究期間（2年間の場合）とします。

研究計画全体必要額
29,796

2年度目以降の場合は、前年度までの執行済額も含めて記載してください。

(単位：千円)

* 研究計画全体必要額の上限は申請書記載の額とします。

7. 設備備品費、消耗品費、人件費・謝金等、その他経費

	細目	金額 (単位：千円)	積算内訳
設備備品費	ノート PC	490	Panasonic Let' s note SZ6 CF-SZ6RDYPP (税抜 245 千円×2 台)
	計	490	
消耗品費	事務用品類	172	実験用印刷用紙、印刷用トナー、他
	計	172	
人件費・謝金等	被験者謝金	1,800	3,000 円×60 名×10 回
	実験補助者謝金	200	5,000 円×4 名×10 回
	実験環境運営謝金	1,200	1,500 円×2 名×400 時間
	計	3,200	
その他経費	実験業務委託費	1,800	50～60 名の実験 10 回
	計	1,800	

備考：

- ① 細目は設備備品費、消耗品費、人件費・謝金等、その他経費（「通信費（切手・電話等）」「運搬費」「印刷費」等（手引 8-8 参照）の別に記入してください。
- ② 設備備品費、消耗品費、人件費・謝金等、については、「積算内訳」の欄に品名又は人物名、単価及び数量を明記してください。

8. 交流計画

(a) 日本側参加者（代表者を含む）の国内出張計画

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
船木由喜彦 秋山 英三 石川竜一郎 渡邊 直樹 大角 道子 松島 斉 前川 淳 西野 成昭 本田 智則 Vesztég Robert 宇都 伸之 上田晃三 浅古康史	すべて 東京	すべて 京都 (立命館大 学)	すべて 11 月初旬を予 定	すべてのメンバーが京都 で開催される BEAM 国際ワ ークショップ参加・本研究 内容の報告 一部のメンバーが、高知工 科大学、関西大学などを訪 問(旅行期間は 8 月から 12 月)	すべての出張者 の経費負担あり

* 旅行期間の欄の記入例：「6 月頃、10 日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(b) 日本側参加者（代表者を含む）の相手国への渡航計画

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
船木由喜彦 秋山 英三 石川竜一郎 上田 晃三	すべて 東京	すべて フランス	すべて 6 月 1 週間	フランス側研究者と実験 プロジェクトに関する相 談、ワークショップで研究 報告	すべての出張者 の経費負担あり

* 旅行期間の欄の記入例：「6 月頃、10 日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(c) 日本側参加者（代表者を含む）の相手国以外の国への渡航計画*

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間**	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担***
船木由喜彦 大角 道子	すべて 東京	すべて アメリカ	7月から10 月の1週間	ワークショップで本プロ ジェクトの研究内容や進 展を報告、議論	すべての出張者 の経費負担あり

* 外国出張の渡航先は原則として、相手国のみを渡航先とします。ただし、当該共同研究の研究成果発表を目的とする学会等への出席や、フィールドワーク等で当該第三国へ行くことが必須である研究上の理由がある場合に限り、相手国以外の国を訪問することは可能です。

** 旅行期間の欄の記入例：「6月頃、10日間」

*** 本経費使用予定の有無を記入すること

(d) 相手国側研究者の来日計画

出張者 (国名・氏名)	用務先	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
フランス Nobuyuki Hanaki Yukio Koriyama Alan Kirman Marc Willinger Patrick Puntis Eric Guerci Sebastien Duchene Te Bao	すべて立命館大学	すべて 11 月頃 10 日 間	立命館大学で開催される BEAM 国 際ワークショップ参加・本研究内 容の報告

* 旅行期間の欄の記入例：「6月頃、10日間」